

# 平成29年度第1回秋田県生涯学習審議会要旨

1 日 時 平成29年8月2日(水) 午後1時～午後3時

2 場 所 県庁第二庁舎5階 52会議室

3 出席者 吉川会長  
石川委員 丑田委員 奥委員 柏原委員 小玉委員  
近藤委員 高橋委員 照井委員

生涯学習課 : 沢屋課長、佐藤副主幹(兼)班長、松橋主任社会教育主事  
藤原学芸主事、小野寺学芸主事、長谷川社会教育主事  
生涯学習センター : 後藤副所長、宮腰主任社会教育主事

## 4 会議内容

### (1) 開 会

会長あいさつ

### (2) 議 事

テーマ「『こうどうびと行動人』を、人づくり、地域づくりに生かす取り組みについて」

・(意見交換、質疑、応答) ○ : 質問 → : 応答 ● : 意見

#### ①事務局から

過去二回の審議会での意見を取りまとめたものとして、提言の骨子(案)を作成した。今回の協議では、これを確認していただきながら、どのように肉付けをしていくかについても御意見いただきたい。

また、「行動人」「学び人」という言葉が定着していないという事実を受け止め、県民にわかりやすい言葉遣いを意識して、次のように置き換えた。

「学び人」→学習者

「行動人」→学んだ成果を生かして行動している人

#### ②提言の骨子 I

##### 現状と課題分析について

● (2)－③障害者の項目について、障害者限定ではなく、マイノリティ全体の立場の方への広がりや、単なる参加ではなく、企画への参画や講師としての活躍の場の提供等、ダイバーシティ化を念頭において過去に発言したものであった。

● 行動人のWebサイトには、「(行動人とは) 学んだことを生かして行動している人」とあり、この定義が受け入れやすく、大上段に構えない表現として県民に浸透しやすいのではないかと。

● 色々な意味で使われていて、受け止め方にも温度差がでている。わかりづらいよりも浸透具合が進んでいないという表現ではないかと。

● 「行動人」の持つ、理想的な学びから能動的な学びへとというイメージをなくしてはいけないのではないかと。

その他、図書館のあり方の工夫について、国際教養大図書館の24時間開館、秋田大学鉱業博物館の絵図や絵巻物をデジタル化などは参考にならないかと。

● 図書館については、提言3に盛り込んでもいいのではないかと。

### ③提言の骨子Ⅱ

#### 提言『行動人』を、人づくり、地域作りに活かす取り組みについて

##### 提言1について

● 意見を取りまとめても、実際に事業にした時にどれだけ生かされるか不安がある。コンパクトにすればする程、ぼやけてしまう。できるだけつつこんで具体的にしてほしい。

● 一步踏み込んで、この後なにをやるのかということ具体的に盛り込んでもらえればいいのか。

→事務局 I 現状と課題分析(2) -②にあることを盛り込みたい。

● 各地で行われている活動を吸い上げて、その情報を全県的に見えるようにしてもらえればいいのか。開催地についてもサテライト的に、インターネット利用で場所を問わずに行うことができる。横のつながりを持つことでうまくいくこともあるし、編集の仕方で色々な世代に興味を持ってもらえるようになるのではないかと。

● 地域格差はいままでも課題としてあがっていた。行動人がどこにいるかどうかの紹介は現在もやっているが、行動人を各地域の活動に出前風に広げていたり、全県から集めて参加してもらおう事業の中に入れてたりすることでもっと浸透していくのではないかと。

● 地域の事業と県の事業とのリンク等の検討。サテライト開催などについても考えていただきたい。

● 「なんも大学」が若い方に知ってもらえていて、それを見た美郷町以外の市町村からも参加いただいている。商業的な活動での認知度向上は重要だ。

→事務局 提言3-②の内容が関連するものであり、ここに盛り込んでいきたい。

- 提言1～3の中で一括の協議をすることとしたい。
- 学ぶことについて、敷居が高いイメージがある。イベントの中での告知やわかりやすい紹介の方法等を工夫することで、若い人がイベント的に参加できるようになるのではないか。(聴覚障害者のケースでの事例)
- どうしても座学中心となりがちだが、体験的な活動を取り入れる工夫などはあってもいいのではないか。
- スマートカレッジで開催した「小林多喜二」の講座をCNAの番組で視聴したが、言葉が聞き取りにくかった。固有名詞が字幕がないのでわからないものが多い。さらに、スマートカレッジの受講の仕方はアニメーションで紹介されているが、どれだけ楽しいものかどうかについての話がない。  
広告媒体の活用の重要性、もっとPRについて考える必要があるのではないか。(本県出身のタレントや有名人、漫画家などはいるのに)  
先日の大雨の際も感じたが、外国人向けのインフラ作りも必要である。
- SNS等の活用は是非うまくやってほしい。
- 行動人を周囲に聞いてみた。高齢者にはSNSは利用しにくく、紙媒体も重要だと感じた。ホームページなどでもカタカナが多くてつまづくことが多い。表現の仕方については考えなくてはいけない。
- 提言1③受講者の生活スタイルに寄り添う工夫とはどういうことか。

→事務局 土日が勤務日であるなど、生活スタイルが多様化する中で、学習機会のタイミングも多様化したいということである。

- 提言1②と③は一つにできるのではないか。  
若い人たち、退職間近の人が参加してない現状があるのならば、そこに焦点を絞った文言「男性と若者」等にしてもいいのではないか。
- 学校教育と生涯学習との接続が大切になる。高校に対するPRが少ないのではないか。進路につながる高大連携授業が現在さかんに高校で行われているが、同じような発想で地元就職者向けの講座などがあればいい。  
スマカレを模して「鹿角元気カレッジ」を今年から開催している。高校にも参加要請があった。県にももっと高校生を使ってほしい。県の活動にどうリンクさせられるか。

→事務局 高校での認知度が低いということで、昨年度末にポスターを配布した。

「鹿角元気カレッジ」は、昨年度、鹿角市と共同で開催したスマカレ「地域活性化講座」

を引き継いだものではないか。

- 高校教育課にも協力を仰ぎ、高校の興味のある生徒に働きかけて行ってほしい。
  
- 大曲農業高校から依頼を受けて地元就職に向けての講座(かんでんづくり)を持った。そこでまずは地元のことをもっと知ってもらいたいという思いを持った。昼食も地元の特産物を使ってみんなで自作した。感動する生徒が多く、地元の手作りということが心を豊かにするための学習につながったのではないか。
  
- 小中学校だけではなく、高校にももっと地域学習を広めていけばいいのではないか。

\*\*\*\*\* 5分休憩\*\*\*\*\*

#### 提言4～6について

- 提言4③事例集による情報提供というのは具体的にどのような内容についてか。

→事務局 行動人の活動を紹介できる専門的な事例集を作成し、行動のきっかけを提供することをイメージした。

- 提言1に盛り込む方がいいのではないか。

→事務局 提言1は学習機会に対するものであり、提言4は学んだ成果を生かすことに対するもので、想定したのは行動する人の事例集である。

- 学び人から行動人への接続という意味合いもあるのでは。
  
- 捉え方が何通りもあるので、表現の方法は考えた方がいい。
  
- 両方のきっかけづくりとなるガイドブックとして、二カ所に盛り込んでも良いのではないか。
  
- 「コーディネーターによるマッチング」等、カタカナが多く意味が分かりにくい。
  
- 分かりにくいので工夫を。

- 提言4・5に関連して、何がきっかけで行動する側になるかといった時、違う世代の誰かに「教えてほしい」と言われるとなりやすい。このような場面を設定することがコーディネーターの役割として提言に盛り込まれてもいいのではないか。

五城目高校では地元学をカリキュラムに取り入れているが、学習したことを地域の方々に発表することでさらに地域とのつながりを深めている。

- あらゆる地域人材の活用について。研修スタイルの多様化を盛り込んでどうか。
- これは提言3に関連させられないか。実際に動けるかどうかの問題だが、提言の文言の作成に当たっては考えてもらいたい。
- すべてを網羅することで焦点がぼけているように思う。「今年度は〇〇を重点とする」などとしてはどうか。
- 提言は提言として、別に年次目標を定めることとしたい。
- 提言6について、何をイメージしているか。

→事務局 学んでから行動するまでを一体化した講座ができないか。また、逆に「こんなことをしてみたい」から「〇〇を学ぶ」という形があってもいいのではないか。

- 提言は頭でっかちの感がある。各地で実際に活動している人がいるので、そこにどうやって若者を巻き込んでいくかということではないか。
- こういったものがあるという事例の情報発信も盛り込んでどうか。
- 「地域の活性と生涯学習」という観点で話し合っているものか。
- 大上段に構えるのではなく、まず色々な分野で行動できる人材を増やすにはどうするか、という観点で考えればいいのではないか。とても幅広い分野だけに、手を広げすぎることなく提言をまとめていきたい。

審議会として皆さまにお集まりいただくのも残すところあと1回である。

今回まとめられた骨子をもとに、提言の完成へ向けて、さらに活発な議論を行いたい。

→事務局 最終回となる次回には、提言の原案を提示したい